

フォーラム通信

発行：こどもの森づくりフォーラム実行委員会事務局

こどもの森づくりフォーラム
定期リリース
(2024年5月号)

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 NPO法人子どもの森づくり推進ネット
tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081 Mailto:info@kodomoriforum.net https://www.kodomoriforum.net

フォーラム通信は、「こどもの森づくりフォーラム」の活動を盛り上げ、推進するネットワークづくりを目的に活動を支援する様々な団体や市民との情報共有のために発信します。2024年は、「こどもの森づくりフォーラム in えひめ」の運営を支援する方々にお送りします。ご覧いただき、ご意見等いただければ幸いです。



(目次)

1. 実行委員長メッセージ
2. 講師メッセージ
基調講演講師：むぎの穂保育園 園長 出原 大氏
3. 事例発表者紹介
1) 大護さとやま認定こども園 2) すみれ幼稚園
4. 連携団体紹介
1) NPO法人ツナガルにいはま 2) 一般社団法人ノヤマカンパニー

「こどもの森づくりフォーラム in えひめ」開催概要

1. 開催趣旨

- 1) 子どもの「非認知能力（生きる力）」を育むための、「自然保育」や幼児期の森林環境教育の機運を高めます。
- 2) 森林・林業関係者と保育・幼児教育関係者、さらに地域住民が連携して、地域における自然保育や幼児期の森林環境教育の支援体制を構築します。
- 3) フォーラム終了後も、レガシーづくりとして支援を継続します。

2. 開催概要

- 1) 開催日：2024年11月30日(土)、12月1日(日)
- 2) 開催地：松山市民会館、えひめ森林公園、えひめこどもの城
- 3) 主 催：こどもの森づくりフォーラム実行委員会
(林野庁、国土緑化推進機構、子どもの森づくり推進ネットワーク、ニッセイ緑の財団、愛媛県、愛媛の森林基金、松山市、伊予市、他、関連する法人、部局から構成)
- 4) 後援（予定）：文部科学省、環境省、子ども家庭庁、他、教育関係機関・保育関係団体・森林関係団体等の幅広い後援申請を通して、当該分野への訴求と幅広い告知等を実施。

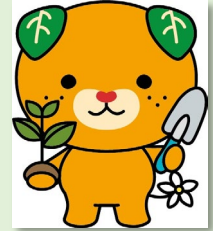


【フォーラム通信発信について】

●「こどもの森づくりフォーラム」（以下、フォーラム）の開催地での盛り上げを実現するためには、行政、団体、市民等との積極的な連携とネットワークづくりが必要です。そのためには、ネットワークにご参加いただける方々との活動情報の共有が必須です。

●フォーラム通信は、連携ネットワークづくりを推進するためのツールとして、フォーラムの運営に関わる様々な団体の取り組みを紹介し、共有するための定期リリースです。

●フォーラム事務局では、本通信を通じて、これからもネットワークを大きく広げてまいりたいと思います。皆様の積極的な参加をお願い申し上げます。



1. 実行委員長メッセージ ～子ども達の未来のために～

子どもたちの未来が幸せである事は、いつの時代であっても、万人共通の願いであると思っています。

今後さらに複雑化する社会において、子ども達が幸せを掴むためには、自ら考え、判断し

行動する「生きる力」を自分のものとしていくことが求められています。

「こどもの森づくりフォーラム」は、子どもたちの「生きる力」を育む森づくりや、森での遊びの可能性に着目し、第1回大会を全国植樹祭の2年前関連行事として、昨年、埼玉県秩父市で開催しました。現在、埼玉県下の小学校や幼稚園等では、苗木のスクールステイに取り組んでおり、来年の全国植樹祭を契機に、近くの里山、園庭や校庭等に植樹が行われます。子ども達の「生きる力」を育む森づくりのスタートとして期待されます。

今年の「こどもの森づくりフォーラム」は、愛媛県松山市を中心に開催します。多くの関心のある皆様のご参加をお待ちしています。



こども森づくり実行委員会 委員長

公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事 沖 修司

2. 講師メッセージ

フォーラムでは多くの講師から、開催趣旨に関する様々なご提言や話題をご提供いただきます。本通信で、順にメッセージをご紹介します。1回目は、基調講演講師の出原 大先生からのメッセージです。

～植物で園庭・土壌を肥沃にさせる～ むぎの穂保育園 園長 出原 大

今まで保育実践の中で、たくさんの樹木や草本類を子どもたちと一緒に植えてきました。クヌギ、コナラ、ミズナラ、マテバシイ、ウバメガシなどどんぐりのなる木やビワ、カキ、ザクロ、キンカン、ヤマグワ、グミなど果樹も植えました。しかし、当初の園庭は植物が繁茂する土壌ではなかったため立派に生長するまでに大変時間がかかりました（当初の土壌は、真砂土で子どもたちが踏みしめて硬くなったグラウンドの土でした）。また、みるみるうちにその木々も栄養不足で弱っていくともわかりました。



そこで、お金をかけて大規模な土壌改良や土の入れ替えを行うことも考えましたが、植物の持つ力で園庭の土を肥沃にすることができることを知り、挑戦してみることにしました。

まず試みたのは、シロツメクサの種を子どもたちと一緒に蒔いてみました。すると、シロツメクサが繁茂し、土が肥えたと次第に周りの樹木も勢いよく生長していく様を確認しました。

多くの植物は、窒素を栄養として生きています。窒素は、タンパク質やアミノ酸を構成する元素で、空気中に多く存在するにもかかわらずそのままの状態では植物が取り込むことはできません。そこで、植物は窒素を取り込むことが可能な根粒菌をはじめ、微生物と共生関係を持ち、植物から根粒菌に栄養が渡る代わりに空気中の窒素を植物が使えるようにするのです。シロツメクサ、アカツメクサ、レンゲソウ、マメ科の多くの植物は、根粒バクテリア（根粒菌）が窒素を抱きこみ、土壌を肥沃にしてくれる植物として知られ、裸地や荒地などに植えるとその土地が肥えるといわれています。この原理を活用して豊かな園庭・植物環境が備わるということが確認できました。

また、樹木でもハンノキ、ヤマモモ（これらの樹木は、パイオニア植物と呼ばれ、山林ではいち早く育ちその土壌を肥やしてくれます）のように根に放線菌を持ち、土壌が肥沃でなくてもいち早く生長するものを点在させて追加植栽しました。また、これらの木の葉には窒素分が多く含まれていることで、落葉し裸地をさらに肥やすことになりました。

このようにちょっとした知識・工夫で、園庭が子どもたちのための草原・森になるのです。シンプルにお金をかけて土壌改良をすることも一つの方法ですが、教育的な意味で植物の持つ力によって、土壌を肥やすことができることを、子どもたちと共に体験的に知ることも意義深いことでしょう。

※出原 大先生プロフィール

聖和大学大学院 教育学研究科幼児教育学専攻、博士前期課程修了。

元学校法人 関西学院 聖和幼稚園 園長。愛媛県東温市において、自分が理想とする保育の実践として「むぎの穂保育園」を開園。園長を務めながら、（株）ゆりのき 代表として、絵本の出版や講演活動に 取り組んでいる。全国、海外からの視察も多い。



3. 事例発表者（園）紹介

フォーラムでは、先進的な自然保育や園庭緑化、さらに森林環境教育に取り組んでおられる実践の活動をご紹介します。本通信では、事例発表園の活動概要を、そのさわりだけでも順にご紹介します。

【事例発表園】愛媛県松山市「大護さとやま認定こども園」

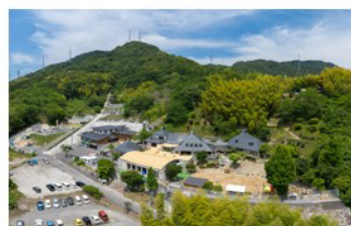
園の裏山を中心に、遊歩道やヤギのいる畑等、圧倒されるほどの広大な自前の自然環境を活用した積極的な自然保育に取り組んでおられます。まだまだ環境を生かしてないのので、フォーラムを契機に、様々なプレーンとの連携を希望されておられました。

●園名	学校法人大護学園 大護さとやま認定こども園	●住所	愛媛県松山市畑寺町乙16番地
●運営法人名	学校法人大護学園	●園長：田中 真由美氏	●定員：310名

●保育・幼児教育理念

・教育理念【知恵と勇気とおもしろい】

- ・「自然は子どもが子どらしく、伸びやかに育っていくための場所」である。自然の中で、五感をフルに使い、幼児期にしかできない経験を…。だんだん山に上がると、風や葉っぱの音やにおい・鳥のさえずりなど四季の移り変わりを身近に感じることが出来ます。
- ・知恵…自ら考える力。だんだん山には知的好奇心の種（フシギ）があふれています。
- ・勇気…一歩踏み出す力。だんだん山にはチャレンジできる勇気の種があふれています。困難にぶつかったとき、あきらめたり、立ち止まったりするのではなく、やってみよう！と立ち向かえる力を育みます。
- ・おもしろい…人は誰も一人では生きていけない。自分の力で生きているつもりでも誰かに助けてもらっている。そのことに感謝し自分も誰かのための存在になる。そんな気持ちと実際に誰かを助け喜ばれる自分との出会いをだんだん山での遊びを通じて育んでいます。そして、大切にしていることは、園全体の「やってみよう」を大切に、大人も（先生）も子どもと一緒に全力で楽しむことです。



【事例発表園】愛媛県松山市「認定こども園すみれ幼稚園」

ホリスティック教育の理念のもと、豊かな園庭環境の中で、特別のことをするわけではなく、日々の保育の中で自然と向き合い触れ合う体験が組み込まれている理想的な自然保育を実践されておられます。

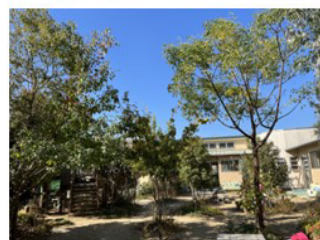
●園名	認定こども園すみれ幼稚園	●住所	愛媛県松山市山越4丁目11-1	●伊予鉄道本町 6 丁目駅より徒歩15分
●運営法人名	学校法人山越学園	●園長：久木 哲氏	●定員：130名	

●保育・幼児教育理念

乳幼児期に、どれだけ自然と共に生きている喜び、心地よさ、うれしさ、楽しさを五感を通して味わうか、また大人や子どもたちと共にその経験を積み重ね、一人ひとりの人生（生涯）の豊かさに関わります。同時に、自然環境への向き合い方や課題への気づきなど、真の希望に向かって人間社会を創造していく力を養っていきます。

●自然保育実践事例

- ・園庭には、50種類100本以上の樹木を植えています。食べることのできる草木は20種類以上あります。子どもたちは、その成長プロセスを初めから終わりまで年間通して身近に見ながら毎日を過ごして、いろんな反応を示してくれます。
- ・園庭の四季の変化は明確で、その移ろいの中で子どもたちは自由に遊びます。教師も植物の名前や特徴を把握して、子どもたちと対話しながら、その豊かさを楽しんでいます。
- ・室内環境も、ほとんどが自然物を使ったもので、園庭の草花や枝を用いてお部屋を飾っています。ネイチャーコーナー（季節の飾り）を設けているクラスもあり、建物の内外を問わず、自然と共に楽しく豊かに生活しています。



4. 連携団体紹介

フォーラムのミッションを実現するためには、志を同じくする様々な団体との連携が必須です。本通信では、愛媛県を中心に自然保育や森林環境教育に取り組んでいる団体から、フォーラムとの連携のメッセージをいただきましたので順にご紹介します。

●NPO法人ツナガルにいほま 理事長 吉村 尚子さんからのメッセージ

「生まれる前も生まれてからも育つ間も」ツナガルにいほま。愛媛県新居浜市の自然を舞台に、保育施設「にいほま森のようちえん」、乳児期親子の居場所「こうのとり」、親子でお外遊び「くすっこ」、小学生の居場所「つつじらボ」、「つつじっこ」、大人の集い「たきびのじかん」など全世代にとって居心地のよいコミュニティを構築。大人も子どもも、だれもがのびやかにしなやかにすこやかに過ごす社会を目指します。こどもの森づくりフォーラムinえひめを通して、ますます皆さんとツナガルことを楽しみにしています。



●団体紹介：NPO法人ツナガルにいほま 認可外保育施設にいほま森のようちえん

新居浜市の自然の中で「のびやかに しなやかに すこやかに」 子どもも親も育ちあう、平日預かり型の森の幼稚園です。 ※詳細 ⇒ <https://nhmforest.info/>

●一般社団法人 ノヤマカンパニー 代表理事 加藤 雄也さんからのメッセージ

山あいの耕作放棄地だった場所を開拓した「山の基地」を拠点に活動しています。家の中で自分の子どもと二人きりで過ごすのではなく、森・川・海などの自然の中に出かけて、他の親子と一緒にじっくり遊ぶ—そうした時間は、日々を健やかに暮らす上で、子どもにとっても親にとっても意義のあるものです。フォーラムの開催を通じて、子どもの育ちと自然との関わりについてより多くの方に関心を持ってほしいと思っています。



●団体紹介：一般社団法人 ノヤマカンパニー

野外で活動する自主保育グループ、「森のようちえんヒュッテ」を運営しています。「自然の中でとことん遊ぶ」「地域のすてきな大人たちとふれあう」「子どもをじっくり観察し、見守る」ということを大切にしながら、みなでお互いに子どもを見守り育てています。 ※詳細⇒<https://noyamacompany.com>